

No.	医療機関名	設置主体	現状														今後の方向性														2017年と2025年の病床数の差異																		
			第7期保健医療計画における役割 (※「医療機関一覧表」記載の有無)								医師数等 (2017年病床機能報告結果)				機能別病床数① (2017年病床機能報告結果)						各プラン、事業計画に記載された担うべき役割						機能別病床数② (アンケート結果)						②-①																
			がん	脳卒中	心血管疾患	精神疾患	救急	災害	へき地	周産期	小児	在宅	医師数	病床利用率	平均在床日数	救急車受入件数	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	非稼働	がん	脳卒中	心血管疾患	精神疾患	救急	災害	へき地	周産期	小児	在宅	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止等	介護医療院への転換	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止等	介護医療院への転換		
1	郡上市市民病院	公立	○	○	○	○	○	○	○	○	19.1	80.1%	16.0	749	150	0	100	0	50	0		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	150	0	100	30	20	0		0	0	0	30	▲30	0					
			<p>○患者さんが安心して療養生活を送れるよう、病診、病床連携、医療福祉（訪問看護、介護施設）との連携強化を図り、診療、入転院、救急対応を担う。</p> <p>●2025年に向け、慢性期30床を回復期へ転換</p>																																														
2	美濃市立美濃病院	公立	○	○	○	○	○	○	○	○	14.1	88.4%	19.8	819	122	0	77	45	0	0		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	122	0	77	45	0	0		0	0	0	0	0	0					
			●2025年の病床数(予定)は、現状維持																																														
3	国保白鳥病院	公立			○	○	○	○	○	○	16.9	62.4%	13.7	205	60	0	60	0	0	0				○	○	○	○	○	○	○	○	60	0	0	60	0	0		0	0	▲60	60	0	0					
			<p>○2025年までには急性期機能中心から地域包括ケア病床を中心とした回復期機能中心へ転換予定</p> <p>●2025年に向け、急性期60床を回復期へ転換</p>																																														
4	中濃厚生病院	公的医療機関等2025プラン対象	○	○	○	○	○	○	○	○	99.8	76.6%	12.2	3,005	489	119	326	44	0	0		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	489	119	326	44	0		0	0	0	0	0	0						
			<p>○地域基幹病院として、5疾病・5事業に対し積極的に取り組み中濃圏域の医療提供体制の充実を図ります。</p> <p>○紹介・逆紹介、医療機器の共同利用を推進するとともに他医療機関の医師・スタッフとの顔の見える関係を構築し、地域医療連携を推進します。</p> <p>○地域医療包括ケアセンターが中心となっておりかかりつけ医や介護事業所など多機関、多職種との連携を強化し、医療から介護まで切れ目のない在宅患者等の支援に取り組み、地域包括ケアシステムの質的向上に向け一役を担います。</p> <p>○認知症対策、嚥下機能障害対策等を継続して行い高齢化社会への対策に取り組みます。</p> <p>○検診事業の拡充により精査・加療に対し早期介入を行い重症化予防に努めます。（詳細は別添「2025プラン」参照）</p> <p>●2025年の病床数(予定)は、現状維持</p>																																														
5	木沢記念病院	公的医療機関等2025プラン対象	○	○	○	○	○	○	○	○	114.5	94.0%	13.1	3,526	452	182	228	42	0	0		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	502	182	228	92	0		50	0	0	50	0	0						
			<p>○地域の医療機関から期待されている役割 救急医療、がん診療、脳疾患、心疾患、消化器疾患、腎疾患、糖尿病、小児・産婦人科疾患、外科疾患、整形外科疾患、泌尿器疾患、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚疾患は急性期医療を主とした高度な専門医療として維持。また、回復期リハについても急性期医療からの連携対応として維持していきます。その他、慢性期疾患、在宅、介護療養は地域の医療機関、施設との連携。</p> <p>○がん診療連携拠点病院としての役割 2025年に向けて、がん患者増を見込み、がん診療連携拠点病院としての診療体制を強化します。また、がんゲノム診断に代表されるような新しい医療の導入、緩和ケア診療体制の充実を図っていきます。</p> <p>○救急医療の体制強化 地域の要望が強い、24時間、365日、断らない救急診療体制の強化を図ります。また、高度な緊急手術数の増加が見込まれることから、手術室の整備と集中治療室の体制を強化します。</p> <p>(※その他、小児・産婦人科医療の強化、災害拠点病院としての役割、地域医療連携機能、疾病予防と健康管理に関する役割、高齢化による患者構成に対する対応、行政機関と連携した健康増進機能への対応について、記載あり)</p> <p>●2025年に向け、回復期50床の増</p>																																														
6	可児どうのう病院	公的医療機関等2025プラン対象	○	○	○	○	○	○	○	○	38.8	57.3%	12.2	1,038	250	6	156	53	0	35	35		○	○	○	○	○	○	○	○	○	250	6	153	88	0	※3		0	0	▲3	35	0	▲32					
			<p>○当院は高度急性期から慢性期まで幅広く受け持っており、現在の病床構成を継続することが地域のニーズに応える最善策であると考えている。ただし、常勤医師の退職による診療科の縮小等の課題も抱えているため、高度急性期や診療科を持たない急性期疾患については、医療圏で急性期を中心的に担う病院との連携を強化し、回復期機能を担う必要がある。</p> <p>●2025年に向け、非稼働病床35床を回復期として再稼働</p> <p>※ドック床3床</p>																																														
6病院計																	1,523	307	947	184	50	35	35															1,573	307	884	359	20	3	50	0	▲63	175	▲30	▲32

備考欄の
○は、アンケートの「2025年に向けて担うべき役割」から転記(抜粋)
●は、2017年度の機能別病床数と2025年の機能別病床数(予定)を比較したコメントを記載